

朝日新聞

エリア広告特集



6.19 THU NEW COPEN DEBUT!

LOVE LOCAL

by  COPEN





LOVE LOCAL
by  COPEN



LOVE LOCAL
by  COPEN

ダイハツがつくっていくのは、これからのローカルライフです。

「これは、もはや嗜好品だ。」と言える軽を目指しました。

オープンカーに、新しい可能性をもたらすクルマです。

軽ではありえなかった、抜群の安定性と高い走行性能をもたらす新フレームを採用しています。

何より、このクルマを構成する外装パーツが、形・柄・空力特性など、好みで自由に着せかえできる。

デザインの嗜好にも、走りの嗜好にも、いかようにも応えられる

フルフォーマット・オーダーサービス‘DRESS-FORMATION’を実現しました。

ダイハツは、このクルマが、日本各地のローカルライフ、

人が「自分の地元で生きていくこと」の意味を転換する起爆剤、

そして「ローカル」と「未来」をつなげる‘フューチャーオープン・カー’になると考えています。

まずは、その地域ならではの風土・個性・持ち味を最大限に楽しめる独自仕様のオープンカーが、

しかも軽ならではのローコストで手に入る時代になるということ。

そして、このクルマをきっかけとして、

地元で根差しながら充実した暮らしを送りたいと思う人たちの「コミュニティ・仲間性」を、

いろいろなアクションを通して、より素晴らしいものにしていけると思うからです。

「都市の規模としての大小」で判断される、古い意味でのローカルではなく、

「地元を誇り、愛し、仲間たちと‘普段’を楽しみあう」。そういう人たちのローカルへ。

「ローカルだから、このクルマでいいや」ではなく、

「ローカルだから、このクルマじゃなきゃもったいない」。そう思われるようなクルマへ。

上質なクルマをつくる、を超えて、上質なローカルライフをつくっていく。

ダイハツの、これからの役割の先駆けとなるクルマの誕生です。

LOVE LOCAL by  COPEN

「私。どんどん、地元ラブ。」

幼なじみは、所有するコペンの外装パーツをまたもや着せかえていた。

どちらかといえば「のんびりいこうよ」的可愛さ路線をいく私のコペンとは対照的に、

いかにも「全身スピード好き」な風貌がさらに度を増していた（ちなみに私たち、女性ですが…）。

材木座海水浴場のそばに「ローカルベース鎌倉」というコペン専門のショップがあって、

たまにだけそのコ（ちなみに私たち、いいトシですが…）と顔を出すようになった。

そこはお店ではあるんだけど、なるほど「ベース」というように、

ある意味でコペンに乗っている人たちのたまり場みたいになっている。

「こんど西湘でドライブ会やるらしい」とか「面白い外装を作ってくれる工房が出来たらしいよ」とか

「ここら辺にまたあのタレントがロケにきてた」とか、いつも何人かがお茶を飲みながらゆったりと暇をつぶしている。

考えたら近ごろ、別に用もないのにクルマを走らせることが増えた気がする。

近場の国道沿いに謎の行列ができていのに遭遇して、

「なんで、今まで知らなかったんだろう」というようなお店を発見したりする。

脇道にちょっと入っただけで、オープンカーで感じる空気が、

海の香りからどこかで焚き火している香りへと途端に変わったりする。

昔は「いやだなあ、田舎だなあ」などと思っていたのに、

「いや地元って捨てたもんじゃないな」と、今さらながら思う。これが成熟か（あ、違うか）。

「我がローカルを楽しむ達人」みたいな人がやっぱりいて、そういう人たちとひょっこり出会うことができ、

それがまた重宝する。ありがたいことです。



COPEN LOCAL BASE KAMAKURA

そこは、鎌倉を愛する人、オープンカーを愛する人のドライバーズカフェ。
『コペン ローカルベース・鎌倉』、この夏、オープンします。

- ◎ 鎌倉ライフを、そして鎌倉ドライブをもっと味わい深くする、みんなにとっての「第2の我が家」的なくつろぎ空間に育てていきたいと思えます。
- ◎ 湘南・三浦から都心を結ぶドライブルートのまさにハブプレイス（要所・中心）に立地。
- ◎ 空間コンセプトは「鎌倉の小路」をイメージした、心地の良いオープンスタイルカフェです。
- ◎ 鎌倉を愛するドライバーはもちろん、クルマを使わない地元の人たちにも自由にくつろいでいただけます。
- ◎ 地元の企業や団体の活動と手を結んで、様々なイベントを開催していく予定です。

6.29 SUN OPEN!



完成イメージ